

稲作技術情報 No. 4

令和8年8月21日
鳥取県産米改良協会

今後の管理のポイント

■いもち病、紋枯病、カメムシ防除の徹底

- 穂いもちは発生後の防除が困難であるため穂ばらみ期及び穂揃い期の2回防除を徹底する。
- 紋枯病の基幹防除(穂ばらみ期防除)を行った圃場においても、穂ぞろい期～成熟期に病勢進展が衰えない場合は、粉剤または水和剤を散布する。
- 斑点米カメムシ類の薬剤防除は穂揃い期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日後に追加防除を行うこと。
- イネカメムシによる不稔被害を予防するには、出穂期の適期防除が重要である。昨年度に被害が多かった地域において現時点でも偏在的な群発が見られた場合は、今後の中・晩生品種の出穂に合わせて防除を徹底すること。

■完全落水は収穫5日前以降

- 早期に落水すると玄米の品質が低下することから、収穫5日前までは完全落水しないように間断かんがいを行行する。

■積算気温、青刈率を確認して適期に収穫

- 夏季が高温の年次は特に、刈遅れによる品質低下が見られ易い。
- 近日の気象経過及び1か月予報を基に、本年は以下の出穂後積算気温を目安に適期収穫を行行する。
 - ・ひとめぼれ: 910～1,110℃(青刈率 14～21%)
 - ・コシヒカリ : 890～1,140℃(青刈率 10～25%)
 - ・星空舞 : 標高300m未満 1,000～1,260℃(青刈率 0～10%)
標高300m以上 920～1,170℃(青刈率 0～12%)
 - ・きぬむすめ: 890～1,100℃(青刈率 6～29%)

※早生品種の収穫適期は、昨年とほぼ同じ予想: 今後の気象条件で収穫適期は変動するため今後、農業試験場から8月下旬及び9月上旬に発表される最新の収穫適期予測を注視する。

I 天気概況

1 天気予報

中国地方（山口県を除く） 1か月予報（08/22～09/21）				
2026年08月20日14時30分 広島地方気象台 発表				
特に注意を要する事項		今後1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、今後2週間程度は降水量の少ない状態が続く見込みです。		
向こう1か月 08/22～09/21	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。		
	気温	平均気温は、高い確率80％です。		
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40％です。		
	日照時間	日照時間は、平年並または多い確率ともに40％です。		
1週目 08/22～08/28	気温	1週目は、高い確率80％です。		
2週目 08/29～09/04	気温	2週目は、高い確率80％です。		
3～4週目 09/05～09/18	気温	3～4週目は、高い確率60％です。		

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）					
気温	中国地方	向こう1か月 08/22～09/21	10 10 80		
		1週目 08/22～08/28	10 10 80		
		2週目 08/29～09/04	10 10 80		
		3～4週目 09/05～09/18	10 30 60		
降水量	中国地方	向こう1か月 08/22～09/21	40 40 20		
日照時間	中国地方	向こう1か月 08/22～09/21	20 40 40		

低い(少ない) 平年並 高い(多い)

2 気象経過

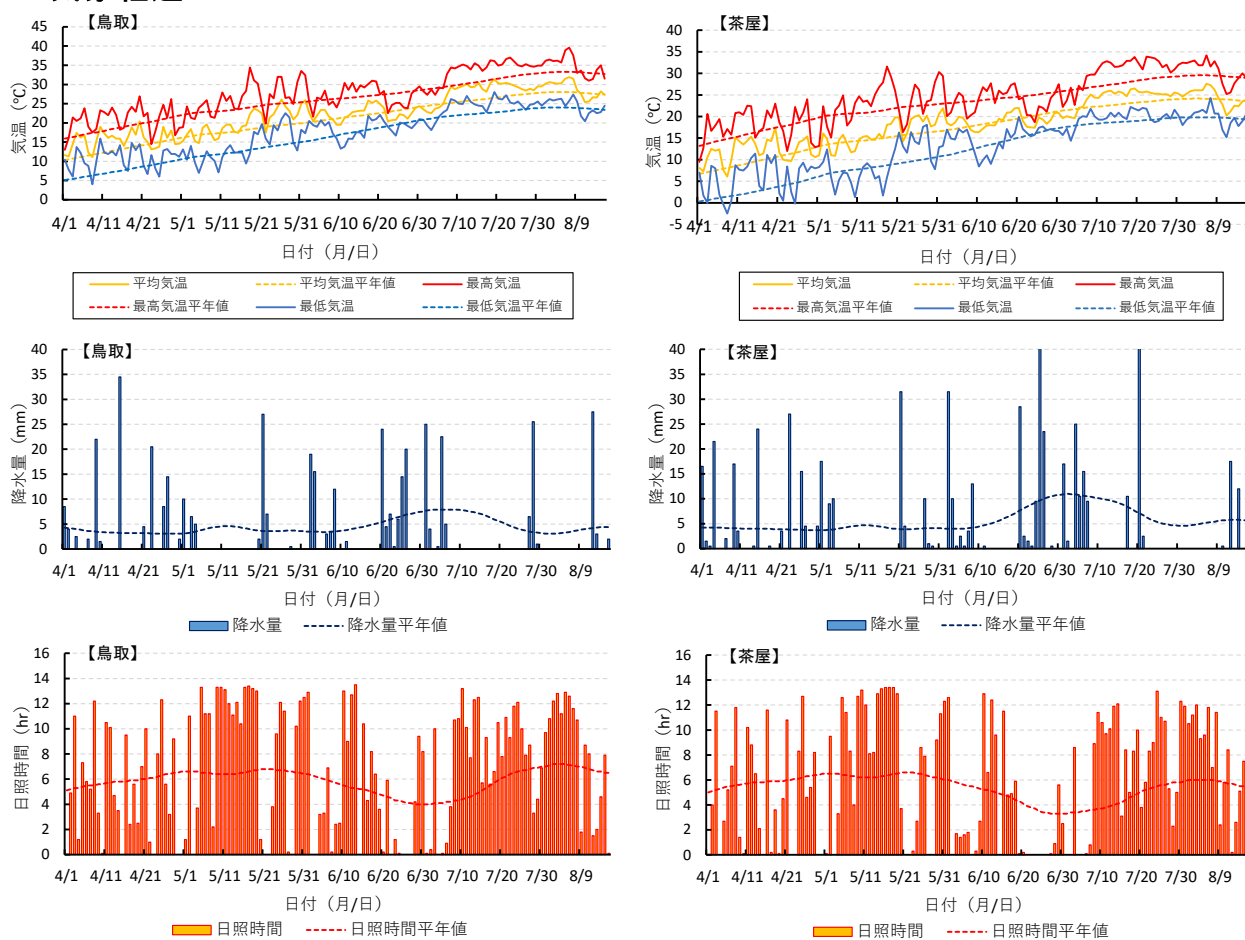


表 各期間の日降水量及び日照時間の合計と平年比較（鳥取アメダス）

月旬 (期間)	鳥取						茶屋					
	7月中旬 (7/10～7/20)		7月下旬 (7/21～7/31)		8月上旬 (8/1～8/10)		7月中旬 (7/10～7/20)		7月下旬 (7/21～7/31)		8月上旬 (8/1～8/10)	
当年・平年	令和8年	平年	令和8年	平年	令和8年	平年	令和8年	平年	令和8年	平年	令和8年	平年
降水量(mm)	0.0	75.3	33.0	37.4	0.0	33.4	52.5	97.7	2.5	50.0	0.5	51.6
日照時間(hr)	88.1	49.1	95.0	74.6	105.3	73.3	82.4	40.8	94.7	62.8	91.0	61.5

7月中旬以降、中生品種の出穂が始まる8月中旬までに平均気温が2～4℃程度高く推移している。7月上旬の梅雨明直前にまとまった降雨があつて以降、8月中旬まで降水量が極端に少ない時期が継続したが、8月12日に鳥取では27.5mm/日、茶屋では17.5mm/日の降雨があつた。日照時間は、7月中旬から8月上旬にかけて多く、少雨によって用水が不足する地域があつた。

II 生育概況

- ・現地ほ場の生育は概ね順調である。
- ・紋枯病が例年発生の見られないほ場や地区でも発生しており、必要に応じて追加防除を実施する必要がある。また、常発地でのいもち病、ごま葉枯病の発生が散見される。さらに、イネカメムシの発生も散見され、基幹防除の徹底が必要である。

【農業試験場作況田】

○早期(5/11移植)

- ・ひとめぼれの出穂期は7月21日であつた(平年-3日)。止葉葉位、茎数、葉色はいずれも平年並。
- ・コシヒカリの出穂期は7月24日であつた(平年-2日)。止葉葉位、茎数は平年並で、葉色はやや濃い。

○普通期(5/25移植)

- ・コシヒカリの出穂期は8月3日であった(平年±0日)。止葉葉位、葉色は平年並で、茎数は多い。
- ・星空舞の出穂期は8月8日であった(平年+1日)。止葉葉位、葉色は平年並で、茎数はやや多い。
- ・きぬむすめの出穂期は8月16日であった(平年+1日)。止葉葉位、茎数、葉色はいずれも平年並。

令和8年度 水稻生育状況(農業試験場 作況田)

5月11日移植(4月17日播種)

調査項目		ひとめぼれ			コシヒカリ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
生育ステージ	最高分けつ期	6月25日	6月27日	-2	6月29日	6月28日	+1
	幼穂形成期	6月30日	7月1日	-1	6月30日	7月4日	-4
	出穂期	7月21日	7月24日	-3	7月24日	7月26日	-2
	成熟期		8月26日			8月28日	
苗乾物重(mg/本)	田植時	15.4	15.5	99	15.8	16.4	97
葉 齢 (葉)	田植時	3.2	3.4	-0.2	3.1	3.3	-0.2
	15日後	6.2	5.9	+0.4	5.7	5.7	-0.0
	25日後	8.6	7.6	+1.0	7.9	7.5	+0.4
	35日後	10.1	9.4	+0.7	9.5	9.3	+0.2
	45日後	11.4	10.8	+0.6	10.9	10.6	+0.3
	幼穂形成期	11.8	11.5	+0.3	11.2	11.8	-0.6
	出穂期(止葉葉位)	14.1	13.9	+0.2	13.7	13.6	+0.1
茎 数 (本/㎡)	田植時	57	62	92	57	57	100
	15日後	72	74	97	57	64	88
	25日後	220	183	120	143	155	92
	35日後	377	339	111	269	286	94
	45日後	531	553	96	420	450	93
	幼穂形成期	525	550	95	435	459	93
草 丈 (cm)	田植時	10.4	10.0	103	10.6	11.3	93
	15日後	18.6	19.2	97	18.2	23.1	79
	25日後	25.9	22.5	115	25.4	26.6	95
	35日後	34.8	31.0	112	36.0	32.9	109
	45日後	52.1	49.5	105	49.5	51.6	96
	幼穂形成期	59.4	62.7	95	58.6	69.4	84
葉 色 (SPAD値)	田植時	26.9	26.7	+0.3	27.7	25.0	+2.7
	15日後	34.2	29.3	+4.9	31.2	26.6	+4.6
	25日後	40.0	37.8	+2.1	35.6	36.0	-0.4
	35日後	39.5	39.6	-0.1	36.1	38.1	-2.0
	45日後	38.2	38.3	-0.1	40.3	36.9	+3.4
	幼穂形成期	41.1	37.6	+3.5	43.6	34.2	+9.4
	出穂期	36.9	37.1	-0.2	41.1	39.1	+2.0

5月25日移植(5月5日播種)

調査項目		コシヒカリ			星空舞			きぬむすめ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
生育ステージ	最高分けつ期	7月9日	7月7日	+3	7月9日	7月9日	0	7月9日	7月8日	+1
	幼穂形成期	7月13日	7月12日	+1	7月18日	7月19日	-1	7月24日	7月25日	-1
	出穂期	8月3日	8月3日	0	8月8日	8月7日	+1	8月16日	8月15日	+1
	成熟期		9月5日			9月12日			9月22日	
苗乾物重(mg/本)	田植時	14.0	16.8	83	12.8	16.2	79	13.4	15.8	85
葉 齢 (葉)	田植時	3.3	3.3	-0.0	3.3	3.4	-0.1	3.3	3.2	+0.2
	15日後	6.5	6.1	+0.4	6.5	6.1	+0.4	6.3	5.9	+0.5
	25日後	8.5	8.2	+0.3	8.5	8.3	+0.2	8.4	8.0	+0.4
	35日後	10.0	10.1	-0.1	10.2	10.0	+0.2	9.9	9.9	+0.0
	45日後	11.2	11.4	-0.2	11.4	11.4	0.0	11.4	11.3	+0.0
	幼穂形成期	11.7	11.8	-0.1	12.4	12.5	-0.1	12.7	12.8	-0.1
	止葉葉位	14.1	13.9	+0.2	14.8	14.4	+0.4	15.4	15.2	+0.2
茎 数 (本/㎡)	田植時	57	57	100	57	57	100	57	62	92
	15日後	105	75	141	96	80	119	86	87	98
	25日後	257	194	133	248	209	118	240	220	109
	35日後	393	363	108	394	443	89	364	421	86
	45日後	480	414	116	527	493	107	462	498	93
	幼穂形成期	473	405	117	524	482	109	440	446	99
草 丈 (cm)	田植時	12.2	13.6	90	11.7	12.8	91	16.5	13.9	118
	15日後	25.1	24.9	101	23.6	22.3	106	25.9	21.2	122
	25日後	27.8	30.1	92	25.8	27.5	94	27.0	28.3	96
	35日後	47.7	45.6	105	43.3	39.9	108	43.7	42.3	103
	45日後	68.3	65.9	104	57.8	59.5	97	62.4	66.6	94
	幼穂形成期	74.8	71.5	105	72.2	72.8	99	81.4	86.8	94
葉 色 (SPAD値)	田植時	24.3	26.4	-2.1	25.2	26.6	-1.4	26.9	26.6	+0.3
	15日後	35.5	30.3	+5.2	35.1	31.1	+4.0	34.3	31.2	+3.1
	25日後	36.4	36.6	-0.2	36.7	36.6	+0.1	35.6	37.7	-2.1
	35日後	42.5	37.0	+5.5	40.5	37.2	+3.3	40.6	36.8	+3.9
	45日後	42.3	35.1	+7.2	43.7	36.1	+7.6	41.3	36.7	+4.5
	幼穂形成期	36.7	34.3	+2.4	34.4	32.5	+1.9	34.0	30.7	+3.3
	出穂期	35.7	37.4	-1.7	35.1	36.3	-1.2	36.9	36.0	+0.9

Ⅲ 技術対策

1 病虫害防除

(1)いもち病

令和8年8月14日発表の、別紙1「令和8年度病虫害発生予察指導情報（対象病虫害：イネ・いもち病 No.6）」を参照。

(2)紋枯病

令和8年8月7日発表の、別紙2「令和8年度病虫害発生予察注意報第5号」（対象病虫害：紋枯病）を参照。

(3)斑点米カメムシ類

令和8年7月22日発表の、別紙3「令和8年度病虫害発生予察注意報第4号」（対象病虫害：斑点米カメムシ類）を参照。

2 水管理

(1)早期落水により白濁粒が増加

- ・早期落水すると白濁粒が増加し、玄米品質が低下する。
- ・地耐力を高めるためには、間断かんがいにおける減水期間を長めにとり、徐々に土を固めていくこと。特に中干しが不十分な場で、早期の完全落水は絶対に行わず、間断かんがいを継続しながら田面を硬化する管理を徹底すること。

(2)中生品種では特に早期落水に注意

- ・高温年でも安定して品質が良い「きぬむすめ」においても、早期落水により白濁粒が増加した事例が過去に確認されている。
- ・早生品種にあわせた水利慣行による落水の結果、中生品種では登熟期間中の早期落水となり、水分ストレスによって品質が低下する事例が各地で見られている。地域で話し合いを行い、きぬむすめの登熟にあわせた落水時期の設定を行うことが、産地全体の品質向上のためには特に重要である。
- ・現在、中生品種は出穂から登熟初期に当たっており、特に注意して間断かんがいを励行すること。

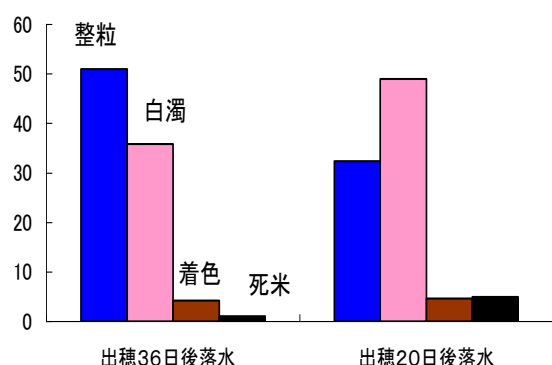


図 落水時期の違いによる玄米品質（1995、鳥取農試）

※（ビニールハウスで高温条件を作出）

3 適期収穫

(1)本年の適期収穫の目安

本年度は、過去1か月の気温が平年値より3.2℃高く、8月20日発表の気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、深刻な暑さが予想されるため、高温年として予測を実施した。

【主要品種ごとの収穫適期目安】

品種	8～10月の気象区分	出穂後日数(日)	出穂後積算気温(℃)	青刈率(%)	籾水分(%)
コシヒカリ	通常年	—	1,000	10.0	—
	低湿年	38～46	910～1,070	16～18	25～26
	高温年	33～42	890～1,140	10～25	23～26
ひとめぼれ	通常年	—	1,000	5～10	—
	低湿年	43～45	1,000～1,110	10～21	24～27
	高温年	38～42	910～1,110	14～21	24～28
きぬむすめ	通常年	40～45	1,050～1,150	5～13	22～24
	低湿年	47～53	1,010～1,100	9～22	25
	高温年	37～46	890～1,100	6～29	21～26

【星空舞の収穫適期目安】

標高区分	出穂後日数	出穂後有効積算気温	出穂後積算気温	青刈率(%)	籾水分(%)
300m未満	39～50日	620～770℃・日	1,000～1,260℃・日	0～10%	19～22%
300m以上	41～55日	510～620℃・日	920～1,170℃・日	0～12%	23～24%

星空舞は、登熟期間における気温の高低で区分せず、有効積算気温(平均気温から15℃差引いた気温の積算)を基準として収穫適期を判断しています。

○収穫適期はほぼ前年並の予想

- ・8月17日時点では、早生品種の収穫適期は、昨年とほぼ同程度の予想であるが、異常な高温が継続しているため、実際のほ場における登熟の進捗を観察し、刈遅れを防止すること。

○収穫適期の目安

- ・本年度も2016年まで行った収穫適期試験(上表)を基に、農業試験場が作成した品種別、標高別の収穫適期(5～6ページ)を参考に収穫時期を判定し、**予測収穫適期の3～4日前**には収穫の準備を行うこと。
- ・また、収穫適期が近づいたら、上表を参考にしながら、ほ場で青粒率を確認すること。

○青粒率

- ・青粒率が少々高い場合であっても、気象条件によっては収穫適期を迎えている場合が少なくない。

○高温年の弊害

- ・高温年には、登熟期間の炭水化物の転流及び蓄積にかかる生理活性が劣り、玄米におけるデンプンの蓄積が不十分となることで基部未熟・背白を主体とする白濁粒が増加する。また、充実が劣る玄米は、色つやが損なわれやすい傾向があるため、収穫遅れによる品質低下が著しい。

○コシヒカリの収穫

- ・ひとめぼれとコシヒカリを比較すると、コシヒカリの方が品種特性として刈り遅れによる品質低下が発生しやすいため、場合によっては、ひとめぼれより先にコシヒカリを収穫することが有効である。
- ・コシヒカリが著しく倒伏すると、穀粒水分が高く推移することで、穂発芽粒が発生するとともに、田面が乾燥しにくくなるため、収穫作業の条件悪化が想定される場合は、コシヒカリの収穫を優先する。
- ・コシヒカリとひとめぼれは収穫適期が近く、同時進行で収穫する場面が多いため、迅速に収穫乾燥作業を進めることで、極力刈り遅れとならないように配慮する必要があるが、同時に異品種混入を起こさないよう正確な区分作業が求められる。

(2) 標高別出穂期別の収穫適期予測(8月17日農業試験場公表)

鳥取県産米改良協会
鳥取県農業試験場

出穂した時期別の収穫適期予測について(令和8年8月17日現在)

収穫適期の予測を行いますので、適期収穫を目指した収穫作業計画の参考として活用してください。

【情報を活用する上での注意点】

- 高温年での収穫適期は、出穂後の日平均気温積算値を基に予測しており、ひとめぼれ 910～1110℃、コシヒカリ 890～1140℃となる月日です(R4年度水稻・大豆・小豆栽培指導指針)。星空舞は、標高300m未満の地域で1000～1260℃(有効積算気温620～770℃)、標高300m以上の地域で920～1170℃(有効積算気温510～620℃)となる月日です(R5年版「星空舞」栽培手帳)。
- アメダスの実測値及び1ヶ月予報値を基に各1kmメッシュの日平均気温を推定し、積算気温により収穫時期を予測しています。
- 収穫適期予測に必要な気象データは、農研機構と㈱ライフビジネスウェザーが共同開発し、㈱ライフビジネスウェザーが提供するメッシュ農業気象システムの気象データを用いています。
- あくまでも目安であり、地形、かんがい水温などのほ場条件、水管理、施肥などの栽培条件等によっては誤差がでることがあります。
- 収穫適期を予測したいほ場の標高は、地図などで検索してください。

【現時点での状況】

早生品種の刈り遅れに注意し、玄米品質の低下を防ぎましょう。

ひとめぼれ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期（ほ場の約50%が出穂した日）				
	7/20	7/25	7/30	8/5	8/10
0～49m	8/21 ～ 8/28	8/26 ～ 9/3	8/31 ～ 9/9	9/7 ～ 9/16	9/14 ～ 9/23
50～99m	8/21 ～ 8/29	8/27 ～ 9/4	9/1 ～ 9/10	9/8 ～ 9/17	9/15 ～ 9/24
100～149m	8/22 ～ 8/30	8/27 ～ 9/4	9/2 ～ 9/10	9/9 ～ 9/18	9/15 ～ 9/25
150～199m	8/22 ～ 8/30	8/28 ～ 9/5	9/2 ～ 9/11	9/10 ～ 9/19	9/16 ～ 9/26
200～249m	8/23 ～ 8/31	8/28 ～ 9/6	9/3 ～ 9/12	9/10 ～ 9/20	9/17 ～ 9/27
250～299m	8/23 ～ 8/31	8/29 ～ 9/6	9/3 ～ 9/12	9/11 ～ 9/21	9/17 ～ 9/28
300～349m	8/24 ～ 9/1	8/29 ～ 9/7	9/4 ～ 9/13	9/11 ～ 9/21	9/18 ～ 9/29
350～399m	8/24 ～ 9/1	8/30 ～ 9/7	9/4 ～ 9/14	9/12 ～ 9/22	9/19 ～ 9/30

コシヒカリ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期（ほ場の約50%が出穂した日）				
	7/25	7/30	8/5	8/10	8/15
0～49m	8/25 ～ 9/4	8/31 ～ 9/10	9/7 ～ 9/18	9/13 ～ 9/25	9/19 ～ 10/1
50～99m	8/26 ～ 9/5	8/31 ～ 9/11	9/7 ～ 9/19	9/14 ～ 9/26	9/20 ～ 10/2
100～149m	8/26 ～ 9/6	9/1 ～ 9/12	9/8 ～ 9/20	9/14 ～ 9/27	9/20 ～ 10/4
150～199m	8/27 ～ 9/6	9/1 ～ 9/12	9/9 ～ 9/21	9/15 ～ 9/28	9/21 ～ 10/5
200～249m	8/27 ～ 9/7	9/2 ～ 9/13	9/9 ～ 9/21	9/16 ～ 9/29	9/22 ～ 10/6
250～299m	8/28 ～ 9/8	9/2 ～ 9/14	9/10 ～ 9/22	9/16 ～ 9/30	9/22 ～ 10/7
300～349m	8/28 ～ 9/8	9/3 ～ 9/15	9/10 ～ 9/23	9/17 ～ 10/1	9/23 ～ 10/8
350～399m	8/29 ～ 9/9	9/3 ～ 9/15	9/11 ～ 9/24	9/17 ～ 10/1	9/24 ～ 10/9

星空舞予測収穫適期

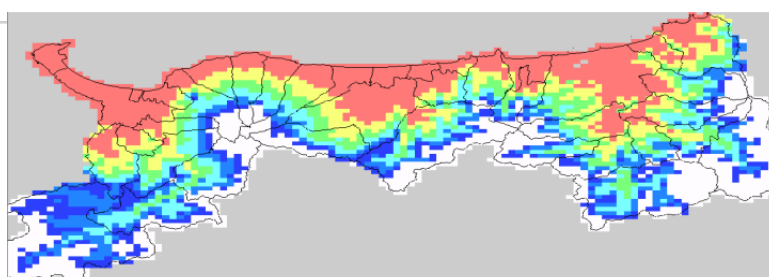
(月/日)

標高	出穂期（ほ場の約50%が出穂した日）				
	7/30	8/5	8/10	8/15	8/20
0～49m	9/4 ～ 9/15	9/11 ～ 9/23	9/18 ～ 10/1	9/24 ～ 10/7	10/1 ～ 10/15
50～99m	9/5 ～ 9/16	9/12 ～ 9/25	9/19 ～ 10/2	9/25 ～ 10/9	10/2 ～ 10/17
100～149m	9/6 ～ 9/17	9/13 ～ 9/26	9/20 ～ 10/3	9/26 ～ 10/11	10/3 ～ 10/19
150～199m	9/6 ～ 9/18	9/14 ～ 9/27	9/20 ～ 10/4	9/27 ～ 10/12	10/4 ～ 10/21
200～249m	9/7 ～ 9/19	9/14 ～ 9/28	9/21 ～ 10/6	9/28 ～ 10/13	10/5 ～ 10/22
250～299m	9/7 ～ 9/20	9/15 ～ 9/29	9/22 ～ 10/7	9/28 ～ 10/14	10/6 ～ 10/24
300～349m	9/4 ～ 9/16	9/12 ～ 9/25	9/18 ～ 10/2	9/25 ～ 10/10	10/2 ～ 10/19
350～399m	9/5 ～ 9/17	9/12 ～ 9/26	9/19 ～ 10/3	9/25 ～ 10/11	10/3 ～ 10/20

きぬむすめ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期（ほ場の約50%が出穂した日）			
	8/10	8/15	8/20	8/25
0～49m	9/13 ～ 9/23	9/19 ～ 9/29	9/25 ～ 10/6	10/2 ～ 10/14
50～99m	9/14 ～ 9/24	9/20 ～ 9/30	9/26 ～ 10/8	10/3 ～ 10/15
100～149m	9/14 ～ 9/25	9/20 ～ 10/1	9/27 ～ 10/9	10/4 ～ 10/17
150～199m	9/15 ～ 9/26	9/21 ～ 10/2	9/28 ～ 10/10	10/5 ～ 10/18



- : 標高 0～100m未満
- : 100～200m未満
- : 200～300m未満
- : 300～400m未満
- : 400～500m未満
- : 500～600m未満
- : 600m以上

4 適正な収穫・乾燥・調製作業

(1) 収 穫

- ・穂もち、カメムシ類、内穎褐変病等の病害虫が多発したほ場や、倒伏等により品質が著しく劣るほ場は、仕分けして刈取り、良質な籾と混ざることがないように乾燥も別で行う。
- ・倒伏の著しいほ場でのコンバイン刈取作業は、機械トラブルを避けるため、以下①～③に留意する。
 - ①作業速度は低速
 - ②刈取条数はやや控える
 - ③倒伏した株は、倒伏方向に対して逆刈りは避け、追刈りとなるような行程を選択する
- ・刈取品種が変わる場合は、コンバインの清掃を確実にを行い、混種が起こらないように細心の注意を払う。コンバインの取扱説明書清掃の手順に従って適切に掃除口を開放し、エアーコンプレッサーや動力散布機の風圧を利用して、扱き胴・各種受け網、穀粒搬送オーガ等の残留籾を完全に排出させる。

(2) 乾 燥

- ・乾燥機への張込時籾水分は、周期的な降雨や倒伏により 30%以上となることもあるので、乾燥機の条件設定には十分注意する。高水分籾は高温下では急速に変質するので、収穫後は直ちに乾燥機に張込み、通風及び循環を行う。また、高水分の籾は水分ムラが大きいので、25%程度まではなるべく常温で乾燥する。

籾 水 分 (%)	28	27	26	25	24	23	22	21	20
放置可能時間(hr)	3	4	4	5	6	12	24	48	72

(注) 三重農試資料

(3) 調 製

- ・籾の水分測定は、勘や感覚に頼らず正しく調整された水分計を用いて行う。試料は未熟粒を取除いた整粒のみとし、乾燥中の籾は穀温補正を行って測定する。
- ・乾燥機の熱風温度、循環速度は機種所定の方法に従い、毎時乾減率は 0.8%以下(遠赤外線乾燥機は 1.0%以下)とする。特に良食味を確保する際には、先ず低温で水分ムラを均してから、ゆっくり時間をかけて乾燥する。
- ・仕上げ水分は 15.0～15.5%の範囲とし、過乾燥にならないように注意する。
- ・過乾燥を防止するためには、乾燥機のタイマー設定を1～2時間控えめとし、以後こまめに水分測定しながら仕上げる。また、青未熟粒の割合に応じて玄米水分を決定し乾燥機を止める。

乾燥後の玄米水分の変化の目安

100粒中の青未熟粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の玄米水分
0～5粒	16.0～15.6%	0.5%程度乾く
6～10粒	15.5～15.1%	ほとんど変わらない
11粒以上	15.0%	0.5%程度戻る

(注) 富山県米作改良対策本部資料

5 次年度の良質米生産に備えたほ場管理 ～ひこばえの処理～

- ・近年の残暑の影響で、稲刈りの早いひとめぼれ・コシヒカリまでの極早生～早生熟期までは、刈株からの再生茎(ひこばえ)が出穂し、稔実する確率が高まっている。
- ・次年度に同一品種を作付ける場合に問題となることは少ないが、糯品種や熟期が異なる品種の作付けを予定する際には、鋤き込まれたひこばえ由来の種子から田植後に発生した異品種の個体(あだばえ)が混入することで、銘柄の均一性や品質に重大な悪影響を及ぼす。

※ 再生二期作のほ場以外は、ひこばえが稔る前の秋鋤きやモアによる粉碎を検討しましょう。

【参考１】適期収穫により、等級や食味の向上を目指しましょう

☆収穫適期では、水分が高く、刈取りを躊躇する例が見受けられます。
 ☆ほ場での水分低下を待つことで、刈遅れにならないように、産地全体として適期収穫を推進しましょう。

【等級や食味向上で最も効果的な対策は？】

玄米は、①刈遅れ、②高温（特に夜温）、③籾数過剰、④栄養不足、⑤日射量不足の条件下で、白濁未熟粒の発生が多くなり、品質が低下することが知られています。今から講じることができる対策の内、最も効果的なものは、早期落水の防止による栄養状態の安定と適期収穫です。

刈遅れとなった場合に、白濁未熟粒（特に基部未熟粒）や着色粒、胴割粒が増加し、玄米外観上の充実度や光沢が劣ることから、適期収穫の玄米と比べて検査等級の低下につながりやすくなります。また、収穫が遅れると、食味も低下することが知られています。

鳥取県における等級低下の大きな要因の一つは刈り遅れであると考えられます。

JAでは、適期収穫への取組みを推進するため、収穫された籾の乾燥が適期に対応できるように、施設稼働の準備を進めています。また、収穫遅れによって、下図のとおり等級や食味評価が低下するという試験結果もあることから、生産者の所得低下や産地評価の低下に直結します。

産地全体の食味品質向上や生産者の所得向上のために、引続き適期収穫を徹底しましょう。

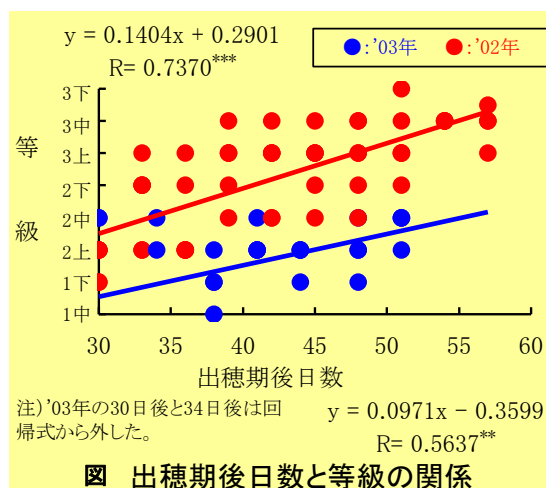
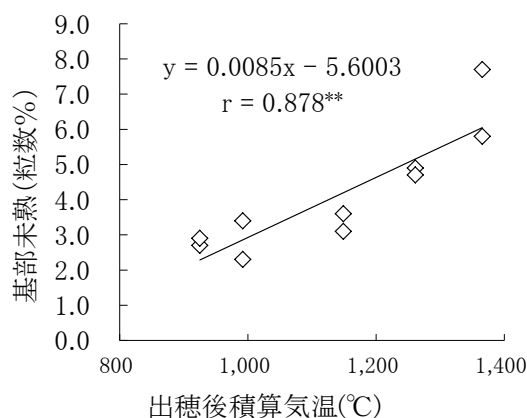
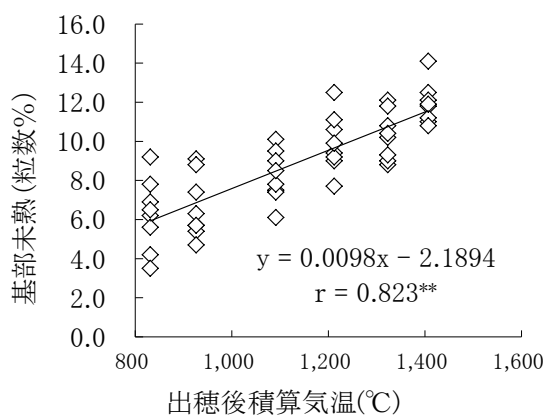


表 コシヒカリの収穫期別食味成績

サンプル	外観	味	総合	ランキング
適期収穫	0.30	0.50	0.55	A相当
適期10日後	-0.25	0.10	0.10	A'相当

鳥取農試産米を穀物検定協会に試験依頼した。



【参考2】熱中症による救急搬送が多発しています。引続き熱中症対策を徹底しましょう。



農作業中の熱中症の予防管理

○ 高温時の作業を避けましょう

- 最高気温30℃以上が3日以上予想される場合には熱中症警戒期間が発表され、最高気温35℃以上が3日以上予想される場合には熱中症特別警戒期間が発表されます。
- 天気予報や県の「あんしんトリピーメール」等で情報を入手しましょう。

○ こまめに休憩し、水分を補給しましょう

- 農作業には必ず水、氷(保冷剤)や濡れタオルなどを持参しましょう。
- 涼しい日陰等で休憩し、20分ごとにコップ1～2杯の水分と適宜塩分も補給しましょう。

○ 涼しい服装で、体温を調節しましょう

- 農作業の際は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用しましょう。
- 空冷ファン付き着衣や冷却グッズを有効活用し、作業中の体温を調節しましょう。

○ 作業は2人以上で行いましょう

- 急に動けなくなることがあるため、1人での作業は避けましょう。
- 1人で作業する場合は、必ず、家族等に作業場所と帰宅予定時刻を伝えましょう。

○ 天気予報の暑さ指数(WBGT)を見ましょう

- 今日、明日の作業強度が高い場合は、軽い作業へ変更しましょう。
- 変更が難しい場合は、作業する時間帯を朝夕の時間帯にずらしましょう
- 休憩や給水の回数を増やしましょう。

暑さ指数に応じた作業の目安を参考にしましょう

作業強度／WBGT基準値	農作業の例
作業は原則中止／31以上	・ 冷房の効いた室内での軽作業のみとする
軽作業（厳重警戒必要）／30	・ 楽な座位、立位、軽い手作業（書く、簿記など） ・ 手及び腕の作業（点検、組み立てや軽い材料の区分け） ・ 腕と足の作業（普通の状態での乗り物の運転、足のスイッチやペダルの操作）
中程度の作業（警戒を怠らない）／28 	・ トラクターや重機の操作、草むしり、果物や野菜の収穫 ・ 軽量の荷車や手押し車を押したり引いたりする
重労働（積極的に水分補給）／25 	・ シャベルを使って少量の土の移動、刈払い機で草刈り ・ 重い荷物の荷車や手押し車を押したり引いたりする
ほぼ安全／21	・ 激しくシャベルを使ったり掘ったりする、鍬で畑を耕す